

# 首都圏中央連絡自動車道の早期4車線化へ向けて



## R4圏央道尾羽根川橋下部その2工事



首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の久喜白岡JCT～大栄JCT間は2車線の区間となっており、慢性的な渋滞が発生している。特に17時台には旅行速度23.9km/hと著しく速度が低下しており、ネットワーク効果が十分に発揮されていない。これを解消するために同区間を4車線化し、交通の円滑化やリスク低減することで、物流の効率化に即応し企業立地を促進、観光としての利便性を向上させインバウンド観光の増加にも期待が持たれている。

本工事は4車線化する工事のうち、橋梁下部（橋脚2基）を築造する工事である。

基礎杭 施工状況



山留3段設置による床堀状況



### 工事概要

工事名	R4圏央道尾羽根川橋下部その2工事		
工事場所	千葉県成田市芝地先		
工期	令和4年9月16日～令和5年11月30日		
発注者	国土交通省 関東地方整備局 常総国道事務所		
施工者	株木建設(株)		
工事内容	作業土工	1,500m <sup>3</sup>	
	鋼管ソイルセメント杭（φ1200）	24本	
	薬液注入工	182本	
	仮栈橋工	1式	
	土留仮締切工	1式	
	作業ヤード整備工	1式	



現場見学会・インターンシップ受入



### 担当者の声

本工事は、橋梁下部（橋脚築造）という標準的な工種ではありましたが、調整池内に作業構台を設置のうえ、狭隘かつ、隣接工事とヤードを供用するという状況下で施工しました。また、高低差約10m以深の地中への基礎杭の施工を行いました。基礎杭の傾斜・位置管理手法については、鉛直と位置の確認を丁寧に行いました。結果として、すべての基礎杭において規格値を満足しました。

山留3段設置しながらの約10mの床堀においては、機械選定・労務調達を迅速かつ計画的に行い、無事故で工期内竣工を達成しました。

また、若手社員（1、2年目 各1名）の配置により、担い手確保の面でも、現場見学会やインターンシップの受入を、その2名主導で対応し、持続可能な建設業に貢献しました。

